

想像界の生物相 かけ アジアを翔た鳳凰たち

二松学舎大学准教授 松浦 史子



資料名 鳳
標本番号 H0101032
地域 中国
サイズ 縦 114cm × 横 121cm



資料名 水上人形芝居用操り人形
標本番号 H0201587
地域 ベトナム
サイズ 高さ 60cm × 幅 42cm

◆◆◆古代——風神から吉祥へ◆◆◆

中国では、**鳳**（たて）**凰**（うし）を**風神**（フウジン）という（右頁上）。その**鳳**の図柄として**鳳凰**が多く選ばれているのは、**風**を中国語で読むと**鳳**と音が通じるためでもある。そのイメージの連想はふるく、殷の甲骨文にみられる**風神**としての**鳳凰**にたどることができ、周代から戦国に至れば、**鳳凰**は、そのころあらわれはじめた**祥瑞思想**を背景に、**吉祥**となった。中国最古の神話的地理志『**山海経**』にも天下に安寧をもたらす**鳳凰**がみられるが、しかし、紀元前の世界では**鳳凰**はまだ**祥瑞**のメインではない。

◆◆◆漢代——政治とのかわり◆◆◆

中国史上、**鳳凰**がもつとも多くあらわれるのは、天子の所業は自然現象に示されるもの、とする**天人相関**の**神秘思想**が流行した漢代である。祥瑞が天意のあらわれとなったこの時代、**火禽**である**鳳凰**は漢王朝の**火徳**（五行相生説では、漢は火に当たる）の象徴として、特に前漢末あたり（紀元前一世紀ごろ）から多く記録されはじめた。例えば、漢王朝を再興した後漢の光武帝の孫である**章帝**の御代、その善政をことうほぐ**吉祥**として**四九羽**もの**鳳凰**があら

われた、という記録がみえている。漢帝国四〇〇年をつうじて、**鳳凰**は、このように王朝の**正統性**を保証する**天の使者**となった。

◆◆◆乱世の凶鳳◆◆◆

漢から唐という大帝国内に挟まれた動乱の魏晉南北朝（三—六世紀）にも、王朝の存亡を政治的に象徴するあらたな**鳳凰**があらわれた。そのひとつが、動乱の歴史を合理化するものとして誕生した、凶兆としての**四羽**の**鳳凰**である。祥瑞の出現は特に王朝革命の根拠として常用されたことから、この手の祥瑞はときの支配者により消し去られたものが少なくない。しかし今、中国周辺部にのみ残される祥瑞情報と結び合わせると、漢以来の統一帝国たる唐にあってなお、この「天下を滅亡に導く**四凶鳳**」が畏怖の対象とされたことが明らかになる（下図参照。敦煌ペリオ文書・唐抄本『**瑞応図**』の**鳳凰**の項目は、天下に戦乱や自然災害をもたらすという**四凶鳳**の記録から始まる）。

◆◆◆その生態と特徴◆◆◆

一般に、**鳳凰**は**フェニックス**と訳されることが多い。しかし、不死鳥のイメージが強い英語圏の**フェニックス**と中国の**鳳凰**が

もつとも異なるのは、おそらく政治思想とのかかわりにある。**鳳凰**の原型については、**孔雀**説・**山雉**説などさまざまな憶測がなされてきた。しかし南北朝初めの博物学者・郭璞の『**山海経図讚**』では、**鳳凰**を「**八**つの象を体とし、**五**つの徳を紋様とす」と讃えるように、中国の**鳳凰**は**八種の鳥獣**（鷹・鹿・蛇・魚・龍・亀・燕・鶏）の複合生物であり、**五徳**（仁・義・礼・智・信）を象徴する、想像上の政治・思想的な生物とするのがただし。中国でのこうした政治思想性と不可分の**鳳凰**のイメージは、漢代にはその支配下にあつたベトナムにもおよんだものと考えられる。しかし今、ベトナムの水

上劇に用いられる**鳳凰**は、すでに政治性とは無縁の民間的な**吉鳥**である（右頁下）。



敦煌ペリオ文書・唐抄本『**瑞応図**』の**四凶鳳**の図
（所蔵：Bibliothèque nationale de France）